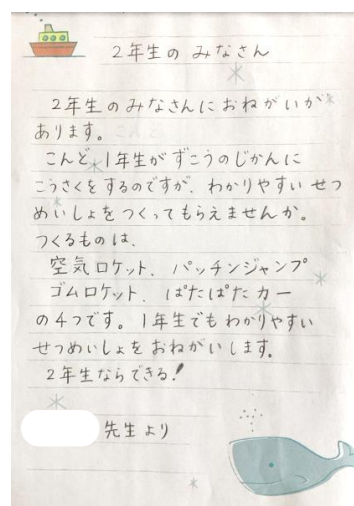


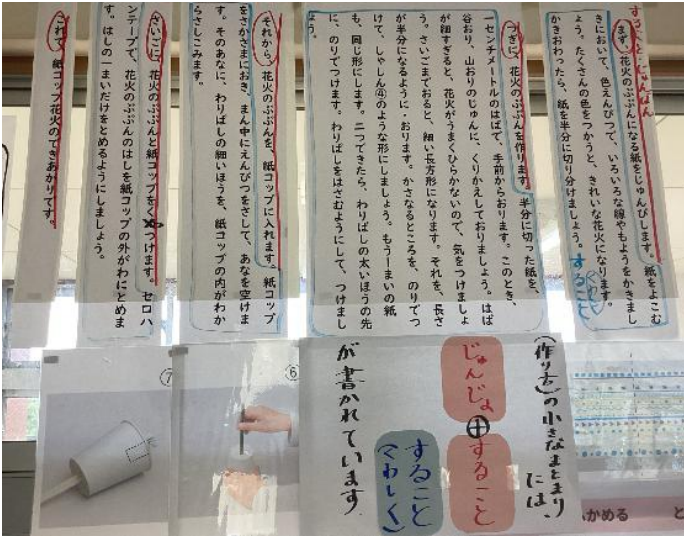
2年 「紙コップ花火の作り方」～「習得」編～

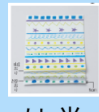
本単元では、「まとまりに注意して、大切な言葉を落とさずに書く」ことをめあてに学習計画を立てました。単元のゴールである言語活動は、「1年生にわかりやすいおもちゃ作りの説明書を書くこと」です。習得場面・活用場面のそれぞれにおいて、「大きなまとまり」「小さなまとまり」「大切な言葉や文」をキーワードとして学習を進めました。



単元のはじめ、1年生担任の先生からの依頼の手紙が届きました。身近な1年生から「わかりやすいおもちゃ作りの説明書を作ってほしい」という依頼があったことで、児童の学習意欲が一層高まりました。まず、説明するおもちゃについて理解を深めるため、実際におもちゃで遊んでみました。「このおもちゃの説明書にはどんなことが書かれているだろう?」という問いに対して、「材料が書かれているのではないか。」「作り方は絶対書かれていると思う。」「遊ぶときの注意も書かれていそう。」など、具体的な予想が多くあがり、説明書作りにおける「大きなまとまり」について考えるきっかけとなりました。

次に、説明の「まとまり」について考えました。ここからは教科書を使用しましたが、あくまでも教科書は説明書作りの参考として用い、内容を学ぶのではなく活用することを意識しました。小さなまとまりが書かれたカードを並べ替える活動を通して、説明の小さなまとまりには「順序」や「すること」といった要素が含まれていることに気づくことができました。



 二つできたら、わりばしの太いほうの先に、のりでつけます。	 二つできたら、のりでつけます。	 かさなるところを、のりでつけて、しん④のような形にしましょう。	 かさなるところを、のりでつけましょう。	 半分に切った紙を、ーセンチメートルのはばで、手前からあります。	 半分に切った紙を、手前からあります。
---	--	--	--	--	---

さらに、おもちゃの作り方をわかりやすく伝えるための大事な言葉や文を考える場面では、教材文とあえて重要な語句（長さ、数、位置、向きなど）を抜いた文章を比較する活動に取り組みました。この活動を通して、児童は「どんな」「どのように」「どんなふうに」など、相手に正確に伝えるために必要な語句や文に自然と着目し、その効果について考えることができました。

本単元のここまでの場面において、特に印象的であったことは、児童のゴールの活動への意識が非常に高かったことです。例えば「説明書を書くためにどんな内容が必要か」「1年生にとってはわかりやすいか」といった、相手や目的を明確に意識した姿が見られました。こうした姿は、魅力的なゴールの言語活動の設定や、単元の流れを共有した単元マップの活用、そして教科書の内容を読むことにとどまらず、単元のゴールを意識して教科書を活用しようとする学習姿勢によって生まれたものだと感じています。次回は『活用編』をお知らせします。